

商工会議所の活動

東京商工会議所

東京商工会議所では、「生産性の向上、および手段としてのIT活用」をテーマにIT推進委員会を設置し、現状分析や支援方法の検討を行ってきた。

平成24年度は、ホームページの戦略的活用をテーマに、Web上のQ&Aサイト「ホームページ戦略活用相談室」の運用や、ホームページを使って問い合わせや売上を伸ばしたいと希望する中小企業に対し、指導実績の高いITコーディネータを派遣し、具体的なアドバイスを実施する「Web戦略パートナー等派遣事業」を展開し



「ホームページの見直しで会社を元気に」

てきた(平成24年度東京都地域振興推進事業)として実施。

そして、のべ126回(45社)の訪問指導実績をベースに、ITコーディネータによる指導結果から中小企業に共通する課題を抽出し、小冊子「ホームページの見直しで会社を元気に」を作成した。ホームページの戦略的活用に向けたポイントを5つのステップに分けて紹介している。

これらの実践によって情報発信力の強化や売上拡大を図るとともに、問い合わせや受注増への対応として、社内の更なるIT化を進めることを最終目的としている。

●クラウドワークスタイルを試せる場の提供も

IT推進委員会では、4つの方向性の一つに「モバイル・クラウド等を効果的に活用し、業務効率を向上させること」を挙げている。新しいワークスタイルは企業の生産性向上に寄与するものであるが、導入前に端末やアプリケーションを試せる場が少ないのが現状である。

そこで、端末やアプリケーション

東京商工会議所 クラウドワークスクエア (6月オープン予定)

東京都千代田区丸の内3-2-2
東京商工会議所ビル1階

お知らせ

5月29日～31日に開催されるモバイル総合展示会「ワイヤレスジャパン」の「中小企業モバイル活用フォーラム」では、「東京商工会議所クラウドワークスクエア」の様子を紹介する予定です

ンなどを常設展示する場として、企業経営者や担当者、中小企業の専門家が気軽に訪問できる「東京商工会議所クラウドワークスクエア」を6月にオープンする予定である。

場所は東京都千代田区の東京商工会議所ビルの1階と、東京駅にも近く訪問しやすい。

スクエア内には展示ゾーン、セミナーゾーン、ワークスペースを設ける。展示ゾーンにはモバイル通信サービス、クラウドサービスなどをITベンダーが展示。セミナーゾーンでは各種セミナーを開催する計画とのことだ。

東京商工会議所
<http://www.tokyo-cci.or.jp/>

豊中商工会議所

大阪府の豊中商工会議所では、モバイル&クラウド時代の進展に伴い、支援体制をいち早く強化。このたび、「ITコンシェルジュ」としてメニュー化した。

スマートフォンやタブレットの利用に関しては導入前の相談から無線LANやメールなどの利用設定、セキュリティまで対応する。

さらに、スマートフォン等からのホームページアクセス増加を受け、1つの制作でパソコン、タブレット、スマートフォンに最適化したページを表示できる「マルチデバイスホームページ制作」のサービスも行っている。

具体的なサービスに入り込んでサポートができることが特徴であり、会議所におけるIT活用支援の先進モデルといえる。



豊中商工会議所ITコンシェルジュ
<http://www.ooana.or.jp/itconcierge/>

経営に役立つIT活用を支援する ITコーディネーター

資格新制度から1年 現在の活動状況は?

——ITコーディネータ協会会長
播磨 崇氏に聞く



新 資格新制度で取得者の 裾野が拡大 経営の相談相手として さらなる認知度向上へ

——まず昨年度の実績として、ITコーディネータ(ITC)資格制度改革の手応えを教えてください。
播磨 ケース研修の見直しを含めた人材育成・研修の新しい体系に対して「資格取得に取り組みやすくなった」という声をいただいで

います。目標値として3年間で資格取得者2500名、その初年度に600名を輩出するという目標を掲げ、ほぼクリアすることもできました。しかも、個人や地域ITベンダー、女性の取得者が増えるなど、裾野の広がりも着実に進んでいます。

——ITCの活動推進に関する施策としては、どのようなことを行ったのですか。

播磨 ITCの認知度向上を図るため、中小企業経営者とITCの出会いの場を作ることに協会としても力を入れています。その一つとして、「IT経営カンファレンス」を全国6カ所で開催し、いずれの地域でも見込み通りの集客ができました。

また、ケース研修の実施をはじめとして各地の届出組織との水平分業にも取り組みました。これには、私ども協会側も現場の情報をきちんと共有し、ITCの活動支援や人材育成に本当に役立つ施策

を考えていこうという狙いも込められています。

インベションスキル向上にも注力

——中小企業の現状をどう捉えていますか。

播磨 大手企業の間で広がっている水平分業の流れが押し寄せ、旧来からの下請け構造が崩壊してきています。これによって事業存続が危うくなる中小企業も少なくない一方で、長年培った技術・ノウハウを生かして直販事業に転換し成功を収めている企業も多数あります。

特に最近では、Webやネットを生かすことでお客様を巻き込んだ新しいビジネスモデルもどんどん生み出されています。自社の強みに気づいて一歩を踏み出した中小企業は、イノベーションに成功していると思います。

——その中小企業の支援役であるITCの現状は?

播磨 「これなら任せて」という強みを持つ人が優れた支援を行い、顧客の信頼を獲得できていると思います。とはいえ、経営者の悩みという

のは多岐にわたるものですから、あらゆる相談に対応できる見識の広さ、さらに他のITCと連携して対応できる柔軟さも不可欠な要素といえます。

——ITCの今後の課題は何でしょうか。

播磨 具体的なポイントを1つあげると、中小企業の経営革新をさらに支援できるよう、イノベーションスキルの習得・向上を図ることで、協会でもそのための研修を企画しているところです。経営者に寄り添った支援を行うことがITCの持ち味でもあるわけですから、ニーズの変化を常に意識し、自らのスキルを磨いていくことが非常に大切だと思います。

協会側のテーマとしては、やはりITC資格取得者をより多く輩出し、その質を高めるための有効な施策を展開することがポイントになります。中小企業の皆様にも、自らのIT経営を推進するためにITC資格に目を向けてほしいと思っています。

経営者の相談相手としてのITCの利用価値を今後も強く訴えていきたいと思っています。(文中敬称略)